

会 議 録

会議の名称	令和 8 年度第 1 回飯塚市子ども読書活動推進計画策定委員会
開催日時	令和 8 年 8 月 26 日(水) 10 時 00 分～10 時 50 分
開催場所	イイツカコミュニティセンター3 階 セミナー室
出席委員	高田委員、矢野委員、高野委員、中堀委員、宮本委員、野見山委員、岡松委員 以上 7 名
欠席委員	綿引委員、松村委員
事務局職員	井尻生涯学習課長補佐、松尾中央公民館・図書館係長、黒川中央公民館・図書館係
指定管理者	出席なし
発言者	発言内容
事務局	1 開会のことば 会議成立報告・資料確認
事務局	2 教育委員会あいさつ
事務局	3 委嘱状交付・委員紹介
事務局	4 議事 (議案第 1 号) 委員長、副委員長の互選 立候補がなかったため、事務局より高野委員を委員長へ、高田委員を副委員長へ選任を提案。異議なし。 高野委員、高田委員より挨拶をいただく。
事務局	～以下、進行は高野委員長～ (議案第 2 号) 令和 7 年度読書に関するアンケート結果 令和 7 年 9 月から 10 月にかけて実施した、市内施設および小中学生を対象とする読書環境と実態の調査結果について説明した。その中で、学年が上がるにつれて読書離れが深刻化し、中学生では約 4 割が月に 1 冊も本を読まないことや、読まない理由として他への時間を優先する傾向が強まることを示した。また、就学前施設における公立と私立間の差や、学校図書室における司書の配置状況および蔵書の傾向について触れた。これらを踏まえ、今後は高学年から中学生への重点的なアプローチと、就学前から家庭・地域・学校・図書館が連携した継続的な環境づくりを進めていく方針であることを説明し、あわせて参考資料（前回の調査結果等）の確認を依頼した。

委員	(意見なし)
事務局	(議案第 3 号) 第 3 次飯塚市子ども読書活動推進計画のふりかえり 第 3 次計画の 3 つの基本方針に基づき、具体的な取組の実施状況を A3 資料の表に沿って振り返り、大半の事業は実施でき一定の成果を上げた一方で、絵本の貸出や読み聞かせ、県立図書館の貸出制度の利用などはあまり成果が出ていない現状があることを説明した。
委員	(意見なし)
事務局	(議案第 4 号) 第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画策定スケジュール(案) 本日の第 1 回会議 (8 月) 以降、毎月会議を開催し、9 月にたたき台を基にした基本方針の検討、10 月に具体的な取組や進捗体制の設定を行い、11 月の素案決定を経て、12 月の計画決定を目指していることを説明した。また、策定委員会以外の動きについては教育委員会と生涯学習課の記載事項を確認するよう求めた。
委員	(意見なし)
委員	5 その他 今回の計画策定にあたり、お集まりの委員の皆さんの考えやご意見を伺いたい。 (以後、出席委員が順次発言)
委員	振り返りや調査結果に示された中学校における読書量や読書時間の減少を踏まえ、就学前から本に触れる機会を確保することが重要であると考え。保育園では現在月 2 回、保護者への本の貸出しを行っており、保育士においても子どもが本に触れる機会の重要性を認識し接している。今後は保護者への本の紹介や親子で語り合う機会を設けることで、小中学校での読書離れの防止につなげたい。あわせて、公立だけでなく私立の園長・所長会議等の機会も活用し、子どもたちが絵本に触れる機会を持てるよう周知を行っていく。
委員	自身の所属においては、赤ちゃんのブックスタート事業として各家庭に本を配付している。また、各子育て支援センターにおいても図書館と連携したイベントを実施しており、少人数で集まる機会を活かして保護者と一緒にゆっくり本に触れる活動を行っている。今日の資料のアンケート結果を見て、読書をしていない子どもが年々増えていることを改めて実感している。スマートフォンやタブレット

委員	トが普及する中、小さい頃から読み聞かせなどを通じて保護者と一緒に本に触れる経験は大切にしていきたい。 自身は小学校の教員で、昨年度まで小学校の校長を務めていた。小学校における学校図書館の充実はどここの公立小学校でも図っており、学校図書館司書や司書教諭も各学校に必ず1名配置されている。また、児童による図書委員会の活動や、週1時間の図書館利用時間を設けることで、子どもたちが本に触れ合う時間を確保している。 しかし、先ほどの報告やアンケート結果にある通り、一昔前は「テレビを消して本を読む時間を作ろう」とアピールしていたが、現在は小学校でも携帯やタブレットの所持率がかなり増えており対応に苦戦している。YouTube や SNS に費やす時間は1日1～3時間、時には深夜に及ぶこともあり、その結果として読書する時間や自宅での学習時間が劇的に減っている。習い事や友人との時間もあるが、端末に費やす時間がかなり多いため、読書や勉強の時間・冊数が削られていると感じている。
委員	飯塚市は図書司書が全小中学校に所属されており大変恵まれている。そのような背景をぜひ活かしていただきたい。
委員	司書の皆さんの活動を実際に現場で見てきたが、読み聞かせ、ディスプレイ作成、児童生徒への助言など大変活発に活動してくれている。
委員	朝読書の実施などの「読書の時間」の設定等は学校によって様々なのか
委員	各学校の（校長判断）に任せている。
委員	穎田地域の小学校では、かつてコロナ禍の感染状況が落ち着いた際にクラスを2つに分けて少人数で読み聞かせを実施するなど、朝の読書時間を継続してきた。現在も朝の読書は行っているが、時程の変更等に伴い読書の時間が15分に短縮されている。 また、子ども園への読み聞かせボランティアについては、コロナ禍で中断したまま現在も復活できていない。クラス内で、先生による読み聞かせはあるものの、外部の人が来て絵本を読んでもくれる時間は子どもたちにとって良い機会であったと感じるため、復活できないのは残念である。 あわせて、自身がスタッフを務める子育て支援センターにおいても、今後は本を3冊程度の子育てセットにして保護者に紹介する取

委員 事務局 委員 委員 委員 委員 委員 事務局	組を行おうと考えている。庄内図書館に置かれているような 3 冊セットの貸出方式であれば保護者も手にとりやすいと感じており、現在その導入を進めている。 中学生の塾への通塾率について、事務局で把握しているか。 事務局では把握していない。 参考までに、部活動については昨年度時点で約 7 割の生徒が加入し、残り 3 割が未加入となっている。中には部活動と並行して週に数日塾に通っている生徒もいる。放課後の状況について、夏季は最終下校時刻に合わせて 19 時頃に帰宅し、そこから入浴や夕食を済ませると、勉強時間を確保できずにそのまま就寝するような状況が見受けられる。そのため、勉強時間や読書時間が十分に確保できず、中には YouTube や SNS を深夜まで利用している生徒も多くいる。 学校から支給されているタブレットの持ち帰りは可能か 可能。持って帰る日を決めている学校もある。 フィルタリング機能のような規制はかかっているか。 取り入れている。 実態として、小学校や中学校からタブレットを持ち帰っているものの、家庭では、自身のタブレットやスマートフォン（保護者から買い与えられている機器）を利用するケースが多い。現在、中学生はほぼ全員、小学生でも約 7 割から 8 割が自分の機器を持っている状況である。 次回の会議予定を報告 閉会 11 : 45
会議資料	事前配布資料 ・ 会議次第 ・ 第 3 次飯塚市子ども読書活動推進計画 ・ 令和 7 年度 読書に関するアンケート集計結果 ・ 第 3 次飯塚市子ども読書活動推進計画のふりかえり ・ 「第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画」策定スケジュール（案）

	当日配布資料 ・飯塚市子ども読書活動推進計画策定委員会規則 ・飯塚市子ども読書活動推進計画策定委員会名簿 ・前回（第３次）策定時に使用した「子どもの読書アンケート比較表」			
公開・非公開の別	1 公開	2 一部公開	3 非公開	（傍聴者 0 人）
その他 （非公開理由等）				